

2002年5月15日

内幸町ミーティング（環境研東京事務所） 5月14日（水曜日）

津田、青野、齋藤宏明、西岡、芳村、清沢、野尻、武田

記録：齋藤

積み込み

積み込み 6月12日

外変 6月18日 外変までは自由に入出りはできる。その後は規制が入る可能性あり。

積み込みスペース

培養室、生物研ドライ、化学実験室の一部、居室、ソナーエリア、XBTスペース

凍ってよければ魚倉

釧路における積み込み予備日は6月23日、ただし外変前にできるだけリストをあげておきたい。北大からの採水器 3本。釧路出港は6月25日。

パラメーター、荷物など

El Puma とのインターキャリブレーション 24または25日

アウトは近くにとめてやる（水は双方が採水、PP,クロロフィル、栄養塩、バクテリアプロダクション）。In もやる予定（バクテリアプロダクション）。この場合は同じ水を使ってやる。

Tully とのインターキャリブレーション（7月24日にアウト採水をリクエストする、できればそのときに El Puma も来て欲しい）

El Puma が大気の採集をする時には、開洋丸にも離れて欲しいというリクエストが来ているが、実行可能かどうかなどは不明な点が多い。

25日はパッチ探索能力のない El Puma のためにプロペラをやる必要があると思われる。

2D は8点、6層（5, 10, 30, 50, 75, 100）または（5, 20, 30, 50, 75, 100）で行い、計2回行う。

トリウム 20リットル採取、濾過、生産量用のキャストと同時に行う（In 3回、Out 2回、ロゼット）。

学生4人（東水大1、北大3）決定

プロペラは10 knot, 10分間隔が基本。FISHも持っていき必要に応じて使用する。

採水器:クリーン用:電中研 Xニスキンクリーン12本、環境研 レバーアクション 4本(クリーン) (すなわちクリーンの予備4本)

ロゼット用:北水研 ロゼット用12本、開洋丸10本、北大3本(すなわち予備1本)

テフロンコートメッセンジャー(齊藤が6個用意する。確認済み。電中研1個)

カナダで下ろす荷物は大物は税関対策必要:鉄計はバンクーバーおろし。船長のサイン必要。前もって船に話しておく。トラップやサンプルは問題ないだろう。

DOCは濾過してカナダに渡す。TullyとDOCのインターキャリブレーションを行う。

ケブラーウインチの設定は出港後。パッキンを鶴見から買う(津田)。

ロゼットは5mに加えて“as shallow as possible”を加える(海況によるが)。ここではDOC,Chl,Nutr用のサンプルを採集する。

ブイ

トラップ深度は決めてある。カナダ側のトラップとロープは回収するだけ。日本側からはトラップとロープを用意する。アルゴスをつける。

浮だま。ロープはある。ホース。シャックル。ブイ。13日に仕立てを確認。

アルゴス2台、シリアル番号の確認が必要。電池の件確認。4隅のは回収するように確認する。開洋丸のGPSブイ、1台。オーブコム3台。レーダーブイはなし。

必要なもの: 旗竿+旗+錘+反射板+フラッシャー(これは開洋丸に置いてきた。豊海倉庫にあると思われるが確認が必要、ない場合は買う必要あり)。カラビナ(6角のもの、20個以上あったほうがいい)。先取りブイ(2+1個)。浮ロープ(16mm、オレンジ、昨年のものであるので大半はそれで間に合うはずだが、200mを予備として用意する)。ステンレスコース(20個)。プラスチックコース(20個)。反射テープ。クレモナロープ(6mm、200m)。錘(30-50kg、3個)。緩衝用ホース。マグロクリップ。多数。北水研からブロックを忘れないように。その他、ビニールテープ、よりもどし、シャックル多数。

アウトは開洋丸がレーダーブイをほしがるのでは(今井談)。

アルゴスの形状を確認する。

仕立て図を送るよう要求する。また最終的な仕立図はTullyから送ってもらうようにする。

生物パラメーターカナダとのやり取り

chl : アセトン法でやる。

サイズフラクション用フィルター : 日本に送ってもらう

HPLC :

FCM:

FRRF : cast + discrete

BSi: filter volume を聞く。

ホルマリンサンプル 1リットル 2%ホルマリンを要求

ルゴール 2% 1リットルを採ることを要求

グルタル 1% 冷蔵庫遮光 300ml

植物プランクトンホルマリン 4層 固定深度で行う。5m、20、50、75mを要求。

荷物の受け渡しはヴァンクーバーで行う。グルタルの濾過は清沢または津田が対応。

深見にも関与してもらい、バクテリアもとる。グルタルのサンプルを流用。

買い物は津田と清沢が後ではなす。

In は毎日 shallowest から植物プランクトンホルマリンサンプルをとるようカナダに要求。

El Puma と開洋のコミュニケーション ファックスをつけることを請求。

荷物おろしは釧路 9月24日

論文に関して

Nature リジェクトは残念だったが、若干の改良を加えて Science をめざす、それでダメなら GRL または JO、とにかく第1報は必要。Science では最近 Compass で鉄産婦が取り上げられるなど追い風があり、このミーティングが行われる前に合った日経の取材でも記者は IPCC でも今後鉄散布を重要視する方向性が打ち出されたと語っており、状況は悪くないと判断された。

改良点

図1はサーファーにする

過去の実験との比較の図を加える

表は図に直す

英文校閲を受ける

長期散布の影響の議論を強調する

C. debilis の優占の意義を強調する。

以上

